

ポリオ後遺症と脳出血を合併した利用者の復職支援

～排泄動作の獲得が就労につながった症例～

高野友美(OT)¹⁾, 北上守俊(OT・ST)^{1, 2)}, 西片寿仁(PT)¹⁾,
秋山明美(OT)¹⁾, 野本規絵(MD)³⁾, 荻莊則幸(MD)⁴⁾

¹⁾ 新潟県障害者リハビリテーションセンター

²⁾ 新潟リハビリテーション大学

³⁾ 下越病院

⁴⁾ ゆきよしクリニック

KeyWords : 復職支援 排泄動作 (ポリオ後遺症)

【はじめに】ポリオ後遺症に脳出血を合併した症例の復職支援に携わった。課題である排泄動作を獲得し、在宅サービスを利用しながらリハビリ出勤、復職へとつながった。今回は排泄動作と復職支援に着目して報告する。**【症例紹介】**50代男性。診断名はポリオ後遺症(右上肢・左下肢の筋萎縮/筋力低下)脳出血(左上下肢麻痺)。身体障害者手帳2級で通所にて当センター週3回利用。介護保険要介護4で訪問リハビリ週2回利用。職業は公務員。ニーズは出来るだけ自立した生活を送りたい、復職のためにリハビリを続けたい。**【身体機能面】**右肩関節固定術14歳時の施行歴あり、ROM肩関節屈曲・外転60度。MMT右肘関節屈曲4、伸展2。左上下肢Br.stage上肢I、手指II、下肢III。**【高次脳機能面】**中等度注意障害**【ADL】**移動は車椅子足こぎで自立。排泄はトイレトペーパーの巻取り、下着・下衣の上げ下ろし介助。

【経過①排泄動作の検討】下衣上げ下ろしにサスペンダーやループ取付の検討を行うが、右上肢の可動域制限により動作が不十分であった。巻きスカートズボン(ズボンのファスナー下部をほどこきそのまま排泄できるようにし腰から下の前部分だけスカートのように覆ったもの)の使用を提案するが、陰部が見える心配あり他の手段を希望。その後コンドームカテーテルを試すが、尿圧でコンドームが外れてしまい使用は難しかった。ご本人より再度巻きスカートズボン使用の希望があり使用したところ、失敗なく一人で排泄できると納得され自立となる。**【経過②リハビリ出勤に向けた体力づくり】**週5日勤務を想定しサービスを変更し週5日自宅外で過ごせるよう調整。**【経過③リハビリ出勤の開始】**週5日半日勤務からフルタイムへと時間延長し、排泄動作を含む職場環境の確認、想定業務の確認等を行い復職へとつながった。**【考察】**復職後の生活や職場環境を想定して段階的に支援を進めたことにより復職へとつながったと考える。